



熊本の人たちと働くのは楽しい。
だから、熊本が好きなのかも。

県庁五階に米国モンタナ州政府の駐日事務所があるのを、ご存知ですか？ 代表はロナルド・ハウギーさん。県とモンタナ州との交流を図るために熊本のいろいろな場所に出掛けるなど積極的な活動をしていらっしゃいます。ハウギーさんに来熊半年目の印象を聞いてみました。

米国モンタナ州政府駐日代表
ロナルド・ハウギーさん



●プロフィール
1946年、モンタナ州生まれ。63年、州政府衛生部・疾病抑制部門担当。77年、世界保健機関本部に勤務。82年にモンタナ州で栄養食品製造販売会社を設立。

●おすすめ商品はたくさんあります
ハウギーさんは、県と姉妹提携を結んでいる米国・モンタナ州政府の駐日代表として今年五月に着任。県とモンタナとの貿易振興や観光・文化・教育の交流促進を仕事としています。
「今は熊本の経済界やマスコミの人たちに会って、モンタナのどの商品が熊本のビジネスが向いているのか調査しているところです」。今月から始まる「火の国フェスタ」の「恐竜展」で扱うグッズをモンタナから取り寄せたり、熊本とモンタナの会社とのジョイント事業の仲介をするなど活躍中です。また、熊本県が草製品や竹細工などの県産品をモンタナの人々へ紹介する仕事のお手伝いもしています。
「モンタナと言うと『美しい風景 広大な自然、いい人たち』というイメージがあるようですが、実は優秀な産業もたくさんあるのです。例えば、環境汚染を測定し世界地図を作成する機械やコレステロールを減らす食品開発などクリエイティブなものばかり。それらを日本向けにどう変えていくか。」「日本人は商品を選ぶ時品質を詳しく調べますね。その点アメリカ人はおおざっぱと



自宅(モンタナ州)の庭にて愛犬と

「東京や大阪など日本のいろんな所を知っていますが、熊本の人は親しみやすく、生活も快適です。特に食べ物がおいしい」とハウギーさん。好物は「日本酒、ビール、焼酎に刺身、鮭」。ハウギーさんより二カ月遅れで来熊した二人の子どもたちは二学期から熊本市託麻原小学校に通っています。夏休み中から新しいクラスメートと一緒に水泳大会の練習をするなど学校にもなじんだようです。「これからはご近所付き合いも増えると思います。それから家族と一緒に熊本のあちらこちらを見てまわりたいと思っています。特に魚のおいしい天草にね(笑)」。



打合せ中のハウギーさん 右は副代表の清田美恵さん

県立美術館収蔵品から「月明」川本末雄作 額装 紙本着色 二二五・五×二二二・〇 糎



天空に皓々たる月の光。その光を受けて輝く水面が紫色の振幅を繰り返しながら、神秘的な模様を織りなしている。作家の目はこのすぐに消えてはまた現れる非定形なもの造形化に向けられた。

画面の大半を占める幻想的な川の流れ、画面上部を断ち切れば、抽象的な平面造形の作品ともみてとれるが、その上部に組み込まれた木々や丘地が奥行き感を醸し出し、我々を抽象的世界から自然の現実的世界へと誘ってくれる。ここにこの作家の自然に寄せる優しい気持ちと垣間見る気がする。幻想と現実が見事なバランスを保ちながら、風景画としての品格を高めている作品である。

作家の川本は東京美術学校を卒業後、日展で活躍し、幾多の賞をもにした。川や湖にまつわる多くの作品を残しているが、その原初風景は、戦後過ごした郷里玉名の菊池川であったことを付け加えておきたい。

(県立美術館参事 古家良一)